

「光の道」WG (第4回)の結果について

1. 日 時

2010年9月14日(火)10:00～11:45

2. 参加者

山内主査、相田構成員、北構成員、中村構成員、舟田構成員、吉川構成員

3. 議論の概要

これまでのヒアリング結果、パブリックコメントの結果、8月末に提出されたNTTのマイグレーションの考え方等に基づき、今後の検討のフレームワーク、視点等について意見交換を行った。

【主な意見】

- ボトルネック設備の同等性確保は、NGNが加入者網と一体的に構築されていることを考えると、NGNを入れて考えないと意味がないのではないか。
- 県域等子会社は、これまであまり気にしていなかった。県域等子会社が大きな活動をしているのであれば、それを見ていないのは、規制の仕方としてどうか。
- 2011年度以降の光ファイバ接続料の水準は、どうなりそうか。分岐単位貸しの具体的な意味は何か。
- 電力系事業者やCATV事業者であっても、設備を安く借りられるのであれば、借りた方が良いという考え方もある。この辺をどう考えるかが重要ではないか。
- 今回の検討のペースとは合わないが、光ファイバが全国に整備された場合に、アクセス回線当たりのコストがどのぐらいになるかについて検討することも考えられるのではないか。
- 東京証券取引所の上場基準を見ると、アクセス回線会社が上場するためには、3年前から取締役会を設置して継続的に事業活動をしていることが必要。
- ソフトバンクの提起した問題は、議論をして一定の整理をすることが必要ではないか。
- 局舎・管路などの線路敷設基盤の開放についても、検討対象とすべきではないか。
- ICTの利活用の問題は、このWGで取り上げないのか。

4. 今後の予定

次回は、9月24日に開催することとなった。